

玉入れ理論導入ガイダンス

—記述・不登法で
確実に点を取るための着眼点を知る—

1

目次

1. 記述を解く上での問題
2. 記述を解く上での重要な視点
3. 解法の紹介
4. その他必要な意識

2

1. 記述を解く上での問題

3

問題点

- ①情報量の多さ
- ②制限時間
- ③学習した知識との結びつき

4

①情報量の多さ

- ・読み取る情報 ←インプット
 記載事項、ページ数
- ・作業工程 ←アウトプット
 × 与えられた肢から選ぶ
 ⇒ 解答を作りあげる

5

情報量の多さによる影響

- ・整理が難しい
- ・作業が増える

6

②制限時間

午後科目

180分／択一 35問
+ 記述 2問

→ 約50～55分 / 1問(不登法)

7

②制限時間

時間配分・調整の仕方
を工夫する必要性

8

③学習した知識との結びつき

・問題の読み取り
要点がわからず、読み飛ばしてしまう。



・答案作成
法律知識の当てはめ方がわからない。

9

③学習した知識との結びつき

見落とし・判断ミス
→問全体に大きく影響

例) 枠ズレ、大幅な減点

10

課題

・限られた時間内で、多くの情報を処理して
いくにはどのようにすればよいか

・どのようにしたら、学んだ知識を正確に
当てはめられるようになるのか

11

2. 記述を解く上での重要な視点

12

課題

- ①効率的な作業
- ②法律知識のあてはめ方

13

①効率的な作業

- 1. すべき作業を把握する
- 2. 計画性

14

1. 作業の把握

出題年度によって、

- ・変化するもの
 - ・変化しないもの
- があることを理解する。

15

1. 作業の把握

〔変化する〕

- ・情報量
別紙、事実関係、注意事項 等
- ・出題形式
解答欄の書き方、情報の配置場所 等

16

1. 作業の把握

〔変化しない〕

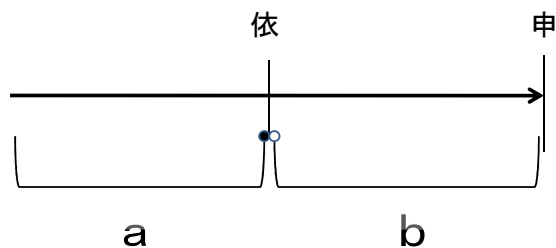
- ・求められる作業
- :「与えられた情報を元に、申請書を作れ」



すべき作業

17

与えられる情報



18


a : ~今(依頼日時点)
現状どうなっているのか。(事実・法律関係)
登記簿、事実関係、別紙 等

b : 今~申請日
今後どのような手続きが必要か
別紙、事実関係 等

19

2. 計画性

1. すべき作業



判断過程を予め決めておく
: どのような流れで解いていくか。

20

②法律知識の当てはめ方

学習した知識を使って、問題を解く


…その前に、把握すべきことがある。

1. 実態把握
2. ルールの確認


21

1. 実態の把握

登記申請
(登記手続き上)「これからこうしてほしい」



「何が起こったのか」「今どういう状況か」



22

1. 実態の把握

事実確認 → 法的判断

大前提となる事実レベルで、
状況・内容を正確に読み解く必要性

23

2. ルールの確認

[記述の特色]
「できるけど、(今回は)やらない」

→ 「指示を守ること」の重要性

例) 注意事項、補足、問 等

24

2. ルールの確認

解答の前提として、
問題全体および各問について特有の
ルールを素早く理解することが重要。

25

重要な視点

- ①情報処理の仕方
効率よく解くための、作業の把握と処理過程
- ②実態・ルールの把握の仕方
法的判断や問題を解く前段階の、
正確なポイントの理解

26

3. 解法の紹介

—玉入れ式記述講座 導入編—

27

重要な視点

- ①情報の整理
⇒玉入れ理論の応用
- ②内容の整理
⇒学力テスト思考

28

視点①情報の整理

対策：

玉入れ理論の応用

29

玉入れ理論

- ・課題設計の方法
学習量の膨大さ(主にインプット期)
⇒集中力の持続により効率的にこなす
- ・玉入れ競技に例える
3つの原則

30

3つの原則

- ①ノルマの細分化
- ②自分でこなす感覚
- ③見直しの習慣化

31

①ノルマの細分化

ノルマの単位



一つひとつの、
別々の「作業の集まり」として見る。

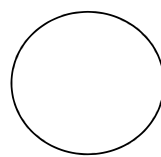
32

1コマ分の作業例

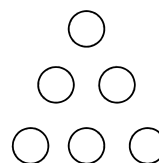
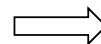
- 1回分の講義を受講する
 - テキストの見返し
 - 問題集を解く
 - 問題集とテキスト中の論点を結ぶ
 - テキストの見直し
 - 次回の予習
- ⇒**細分化して考える**

33

ノルマのイメージ



一つの塊



小さな玉の集まり

34

ノルマの細分化の効果

・一つの作業時間＝少

⇒「集中し続けなければならない」
という負担が減る

→ スムーズに取り組める(精神的にも)

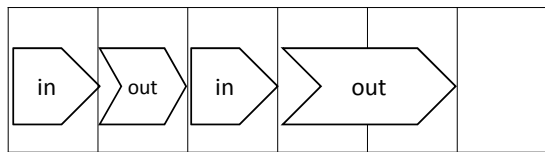
35

②自分でこなす感覚

期限の枠をつくる

36

期限の枠



作業:3コマ分
期限:6日
⇒「自分で立てた課題を自分でこなす」

37

上司脳

・課題の命令主体の置き換え
他人→自分



・主体性⇒集中状態に入りやすくなる

茂木健一郎「膨大な仕事を一瞬でさばく 瞬間集中脳」、株式会社すばる舎、2017.9

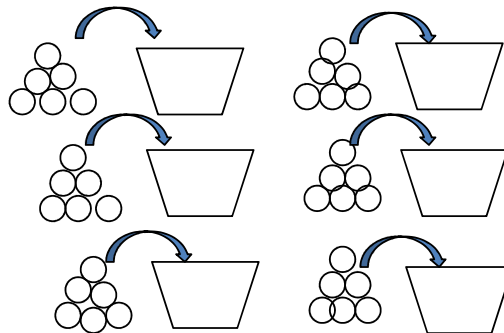
38

「自分がやると決めたこと」

- ・意欲的に取り組むことができる
- ・集中しやすくなる
- ・作業効率が上がる
(無駄な時間が減る)

39

学習のイメージ



⋮
⋮

40

③見直しの習慣化

やった作業を記録として残す。
⇒達成感の可視化

41

達成感の可視化

〔作業 例〕

- ・スケジュールの振り返り
作業計画をメモに残す。
一日の最後に斜線。
- ・こなした回数のカウント
テキスト・雛型を回した数を記録。

42

達成感の可視化

〔効果〕

- ・自信・モチベーション
- ・ペース調整・優先順位の見直し
- ・メッセージを残す癖
⇒問題演習への活用

43

玉入れ理論への疑問

作業の分散

⇒集中力の散漫？

44

偶有性

脳にはコンスタントな新鮮味が必要。
一つのことに長く固執する
⇒集中力が途切れる。
⇒パフォーマンスの精度が落ちる。

茂木、前掲書

45

偶有性

対象のこまめな切替

⇒瞬間で集中状態に入りやすくなる。

茂木、前掲書

46

記述への応用の仕方

47

①作業の細分化

〔記述の作業〕

全体：読む ... 問題文、資料
 考える
 書く ... 解答欄
 見直す

48

①作業の細分化

〔個別の作業〕

読む作業：各資料ごとに検討
登記簿
別紙
問題文(本文／各問)
注意事項・聴取記録の補足
事実関係

49

①作業の細分化

作業として何があるかを
できるだけ細かく特定する。

50

②期限の枠を設ける

例)

全体： 55分で解く

作業枠： 読む 10分
考える 20分
書く 20分
見直す 5分

51

②期限の枠を設ける

①で特定した作業



逆算して、
全体と各ステージの制限時間を
自分で定める

52

③記録に残す

逐一メモをとる

資料、答案用紙 等

53

メモの効用

・記憶の喚起
・情報の要約・整理
等

(齋藤学「思考を鍛えるメモ力」筑摩書房、2018.7)

54

③記録に残す

〔意図〕

- ・見返す用のメッセージ
- ・書きながら情報整理

55

③記録に残す

〔効果〕

時間短縮

○「判断する時間」

×「書く時間」

→結局、「考える時間」が増える

56

玉入れ理論の応用

- ・まず、何をすべきかを確認する。
- ・自分で決めた判断過程・時間に従い計画的に作業をこなす。

作業の効率化

57

視点②内容の整理

学んだ法律知識を使うまでの道のりの険しさ



論点の抽出の仕方を考える必要性



学力テスト思考

58

学力テスト思考

〔考え方〕

文章・資料の読み取り、
数字や事物の流れ等について、
一般的な学力テストのテクニックを
使用し解いていく。

59

学力テスト思考

〔方法〕

1. 依頼内容の把握
2. 態様の確認
3. 条件の整理

60

1. 依頼内容の把握

〔問題中の情報〕

- ・依頼者は何を言っているのか
問題文、事実関係 等
- ・試験官は何を言っているのか
各問、注意事項・補足 等

→文章読解

(出題者の意図、登場人物の気持ち...)

61

文章読解

- ・問題文・各問の指示の読み取り
依頼者:日付・申請人の数 等
試験官:解答の仕方 等
- ・注意事項・補足の選別
残す→問題のヒント・構成部分
捨てる→試験官の言い訳・慣行

62

2. 態様の確認

〔特定する〕

- ・何が起こるのか(起こったのか)
- ・どういう状況か
別紙、事実関係、問題文(本文・各問)

→SVO+日付

63

2. 態様の確認

- S ... 当事者
- V ... 事実・権利変動 等
- O ... 物件
- 日付... 申請日・契約日 等

64

3. 条件の整理

登記・人物等の履歴(流れ)

⇒順序・位置・対応関係の把握
(数的処理)

65

3. 条件の整理

- 資料(登記簿、別紙、事実関係 等)
 - 条件の読取
 - 図式化
 - 組み合わせ
 - 整理

66

学力テスト思考

問題の文中・資料から、
ポイントとなる情報やルールを正確に捉える



論点の抽出をしやすくする



法的判断へとつながる道をつくる

67

玉入れ式記述講座のコンセプト

応用力

学習した基礎知識を
当てはめやすくする、
当てはめる分にする。

68

4. その他必要な意識

69

基礎知識の徹底

<テキスト・雛型>

・回す

・「つながり」をイメージ

件数、順番

例) 遺贈>相続、名変(省略の可否)

70

基礎知識の徹底

<問題集>

理由・根拠から考える

例)線を引く

各肢 自信に応じた記号→判断

71

達成感を得る工夫

「できたこと」を振り返る習慣

目的: とにかく前に進む、こなす

⇒前向きな気持ち のためのしかけ作り

72

+αの意識

×「周りと同じように」

量・スピード > 講師の指示・合格者

73